

学校教育目標	心身ともに健康で情操豊かな子どもの育成 ～知・徳・体の調和のとれた子ども～
《本年度の重点目標》	
《重点目標1》 知・徳・体の調和のとれた子どもの育成を推進する。	
《重点目標2》 健康で、安全・安心な学校づくりを推進する。	
《重点目標3》 家庭・地域と連携し開かれた学校づくりを推進する。	

◆記入にあたっての留意事項

- 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。
- 「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には、次の6点をいずれかに必ず位置づけること。
 - ①学力向上に関する取組
 - ②体力向上に関する取組
 - ③心の育ちに関する取組
 - ④いじめ問題解決に関する取組
 - ⑤特別支援教育推進に関する取組
 - ⑥あいさつ日本一に関する取組
- 小・中学校においては、①学力向上に関する取組、②体力向上に関する取組、③心の育ちに関する取組の部分の記述について、スクールプランと整合性を取ることを。
- 評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

取組	評価項目	評価項目についての重点的取組	評価	○成果と◆次年度の改善点
学力向上に関する取組	【授業改善①】 ◇<児童質問紙(47)>「授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」について、肯定的な回答する児童の増加 【授業改善②】 ◇<児童質問紙(49)>「授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」について、肯定的な回答する児童の増加 ◇<児童質問紙(59)>「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」について、肯定的な回答する児童の増加	○各担任が「授業改善シート」を活用して自分の授業をふり返り、授業力の向上を図る。1週間に一度提出する。 ○管理職や教務主任等が毎日校内巡視を行い授業見学をし、教員の指導力を把握するとともに授業改善につながる助言を行う。また、学期末に児童アンケートをとり、児童の学びの実態を把握するようにする。	A	○質問紙47で肯定的な回答をした児童の割合が達成目標に到達した。 ○めあてが確実に設定され、児童が見通しをもって主体的に学習活動を展開することができた。振り返りやまとめを自分の言葉で書くことができ、思考を深めることができた。 ○児童アンケート「話し合いを通して考えを深めている」の肯定的な回答が80%になった。 ○「授業改善シート」を活用して、授業改善につとめた。 ◆次年度は、学校で統一したノートづくりを進める等、さらに指導の徹底を図る。 ◆「授業構想シート」を使って、まとめからめあてを作っていく授業作りに取り組む。 ◆「話し合いの仕方」を全学年で揃えることで、学び合い学習を活性化させる。
	【補充学習】 ◇<児童質問紙(33)>「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」について、肯定的な回答する児童の増加	○既習事項の定着度確認のためにミニテストや単元末テストを行い、個々のつまずきを把握する。つまずき克服のため、補充学習へつなげる。 ○基礎的・基本的な学習事項の定着に向け、水曜と金曜の放課後「補充学習」、給食準備時間を利用して「算数教室」の時間を設け指導する。	C	○質問紙49・59で肯定的な回答をした児童の割合が達成目標に到達した。 ○授業の中で、必ず「話し合う活動」を取り入れることで、児童が、自分の意見を語るできるようになった。 ○補充学習で基礎的・基本的な内容の復習に取り組んだ。児童の意識もあがった。さらに3学期も続ける。 ◆次年度は、田原小学び合い学習に関する資料を作成し、発達段階に応じた指導が全校で行えるようにする。 ◆全校で補充学習に取り組めるようにする。
	【家庭学習】 ◇<児童質問紙(14)>「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」について、「1時間以上している」と回答する児童の増加	○児童や保護者を対象に『家庭学習に関するアンケート』を実施し、児童の学びの実態を的確に把握する。[児童7月、12月、保護者1月] ○月初めに学年便りで、「家庭学習コーナー」を設け、今月の家庭学習内容を知らせることで、計画的に家庭学習に取り組むよう指導する。家庭学習頑張りカードを活用する。良い取組を学級で紹介する。	B	○質問紙14で1時間以上していると回答した児童が本年度の達成目標に到達した。 ○宿題と自主学習の両方を家庭学習として取り組むことで、計画的に取り組む児童が増えた。 ◆次年度へ向けて定着していない児童へ個別の支援を推進していく。 ◆家庭学習の内容についての指導がまだ徹底できていないクラスがあるので、共通理解を図る。
体力向上に関する取組	【授業改善】 ◇<児童質問紙(17)>「体育の授業は楽しいですか」について、肯定的な回答する児童の増加	○体育授業の準備運動では、体力向上プログラムを活用しジャンプアップ運動等を必ず行うようにする。また、縄跳びを学習の始めの運動に取り入れ、25分以上の運動量を確保する。 ○1単位時間の中に3分間の話し合い活動を2回取り入れ、体を動かす楽しさや喜びが実感できるとともに児童一人一人に達成感が得られる授業展開を行う。	B	○質問紙17で肯定的な回答をした児童の割合が増加し、本年度の達成目標に到達した。 ○ジャンプアップ運動やなわ跳びを体育科の授業に取り入れ運動量の確保も図られた。できるようになったことや達成の喜びがどの児童にも得られるように、授業改善をより一層進めていく必要がある。 ○めあてやまとめを設定し、自己の記録の伸びを点数化した体育科授業を行うことで、体育の授業を楽しみにする児童が増えた。 ◆次年度は、校内研修の充実を図る。 ◆もっと体育科の授業において、場の設定、教具の工夫について研修会を行い教師の意識を高めていく必要がある。
	【運動習慣】 ◇一校一取組として、年間をととして、週1回全校で取り組んだ回数が増加	○新体力テストの結果をもとに、体力向上担当者(体育主任・教務主任)を中心に分析(7月予定)し、全職員で児童の実態を把握し、体育科の学習で付けさせたい力とその方法を定める。 ○一校一取組として、週2回火曜日(2・4・6年)と木曜日(1・3・5年)の中休みにマラソンタイムを設定し、体力作りをする。	B	○一校一取組の年間実施率が目標を達成した。 ○多くの児童が体育以外でも運動やスポーツを行うようになり、体力が向上し始めた。 ○体力テストの結果、4年、5年反復横跳びが苦手であることが分かり、幅跳びの授業で跳ぶ力をつけた。 ◆個々の体力テストの結果分析のために「スポコン広場の体力アップ」に登録し、個々の体力の結果をグラフ化し、自分の特性を知るようにする。
心の育ちに関する取組	【授業改善①(道徳)】 ◇<児童質問紙(9)>「将来の夢や目標を持っていますか」について、肯定的な回答する児童の増加 ◇<児童質問紙(43)>「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定的な回答する児童の増加	○道徳の時間に、内容項目「希望と勇氣、努力と強い意志」に関する教材を学期ごとに行い、重点的に取り組む。また、生活科や総合的な学習の時間において、地域人材をいかした交流活動を積極的に進める。	B	○質問紙9・質問紙43の肯定的な回答をした児童の割合が、本年度の達成目標に到達した。 ○全学級で「希望と勇氣、努力と強い意志」に関する教材を使って道徳授業を行うことができた。生活科や総合的な学習の時間において、地域人材をいかした交流活動が進められた。 ◆次年度は、夢や目標を持てるようになるために自尊心を高める取組を進める。 ◆「考える道徳」となるよう授業を工夫する。
	【授業改善②(特別活動)】 ◇<児童質問紙(6)>「自分には、よいところがあると思いますか」について、肯定的な回答をした児童の増加	○「北九州子どもつながりプログラム」「新版いのち」を継続的にを行い、児童同士の人間関係をふかめる。また、学級や学校への所属感や有用感をもたせるために、係活動や委員会活動を充実させる。 ○各学級の学活や帰りの会で「友だちの良いところ見つけ」や「今日のキラキラさん」など、互いを認め合いほめ合う取組をする。また、朝の会で「今月の歌」や「クラスの歌」をみんなで歌うことで、音楽を通して、豊かな心、共感の気持ちを育てる。	B	○質問紙6で肯定的な回答をした児童の割合でできた。 ○多くの児童が将来の夢や目標をもつようになり、自己肯定感が高まってきている。 ○「ステキの木」にあったか言葉の花を咲かせ廊下に掲示することで、言葉遣いや互いを認め合い褒め合う気持ちが育った。 ○「いいところみつけや今日のきらきら等、クラスで共感的風土作りをした。 ◆次年度も「友達のよいところみつけ」等、互いを認め合い、褒め合う取組を継続するとともに、一人一人が輝ける場づくりを積極的に行っていく。
心・健康・安全の取組	○いじめの未然防止、いじめゼロを目指す。 ○児童の教育的ニーズを把握して、自立に向かうための指導・支援と校内体制を構築するとともに、関係機関と適切に連携する。	○「心のアンケート」を毎学期全校で実施する。 ○担任や養護教諭との教育相談の機会を設け、必要に応じてSC、SSWとの連携を図りながら組織的に対応する。 ○特別支援教育に対する理解が深まるように、月1回情報提供のための連絡会を積極的に行う。 ○特別な支援が必要な児童、保護者との話し合いを行い、適切な関係機関と連携、支援ができるようにする。	B	○「心のアンケート」の毎月実施できた。必要に応じた面談や学期に1度は定期的な面談を行うことで児童の友達関係を把握することができた。 ○担任だけでなく、養護教諭やSCなどと連携を図ることで児童が話ができる大人が増え、心の安定を図ることのできる児童が増えた。 ○関係機関との連携を推進し、特別な支援を必要とする児童に対する支援体制を整えることができ、児童が落ちついて過ごし、学習することができた。 ◆児童のニーズに応じて、よりよい支援の在り方や専門機関との連携ができるよう検討していきたい。
開かれた取組	○「えがおであいさつ日本一」が達成できるように、日々の継続的な声かけを行う。 ○保護者、地域と情報を共有し、連携を推進する。	○全クラス持ち回りで、毎日のあいさつ運動に取り組む。 ○スクールヘルパーや登校見守りの方々にも協力を要請し、登下校時の子どもにあいさつや声かけをしていただく。 ○学年・学校通信、学校ホームページを通して情報発信を行う。 ○学校ホームページを毎月更新する。 ○授業参観や学校開放週間を通して、情報発信を行う。 ○地域の行事や夏祭り、父親委員会主催のイベントなどへの積極的な参加を促す。	B	○全校児童があいさつ運動に主体的に参加し、あいさつを行うことができた。あいさつ運動に向けてクラスでの取組を工夫下の良かった。 ○朝、見守り隊の方々や校長の毎日の声かけで児童のあいさつが日常化してきた。 ○学年・学校通信の発行を定期的に行うことができた。 ○学校開放週間には、学習発表会へ多くの保護者、地域の方の参観があり、学校の活動を見ながら理解していただく機会となった。◆あいさつ運動でなくても、児童が自覚し、気持ちのよいあいさつができるように引き続き指導を行う。 ◆ICTサポーターの来校日の都合があり、タイムリーにホームページの情報更新ができない部分もあった。